山梨県立わかば支援学校　地域支援だより　No. 4

WAKABA

令和4年 3月 15日発行 文責: 上田

ごあいさつ

この一年間、本校の地域支援だより「WAKABA」をご覧いただきまして、ありがとうございました。また、本校のセンター的機能をご活用いただきましたことにも御礼申し上げます。

さて、国が「インクルーシブ教育システムの構築」を打ち出してからもう10年近く経とうとしています。本校の通学区域を含め県内にはこの理念がまだ浸透していないように感じています。昨年の秋頃、「次年度の小学部入学希望者が30人くらいいる」という話を耳にしたときには正直驚きました。最終的には新小1は19人で収まりましたが、かなり多い人数です。今年の小1が16人ですから、小学部が増加している傾向が顕著です。この中には、地域の小学校でもやっていけそうなお子さんもいるように感じています。

この状況を考えたとき、学校説明会、学校見学、教育相談、授業体験とこれまで私たちが丁寧にやってきたことが、実はインクルーシブ教育を阻害しているのではないかと思うに至りました。私たちが地域の特別支援教育のセンター校として提供してきたセンター的機能の在り方を抜本的に見直す時期に来ているのかもしれません。

学校長　荒川 昌浩

令和3年度の地域支援部の活動報告

主なセンター的機能発揮の状況について（1月末まで）　※（ ）は昨年同時期の数

教育相談	学校見学	41件（52）
	体験学習（各学部の授業体験会の参加）	61件（33）
	来校・電話による教育相談	105件（103）
訪問支援（地域の保育園・幼稚園・小・中・高等学校へ出向いての支援）		24件（18）
研修支援（地域の小・中・高等学校の研修会等への協力）		2件（3）
学校説明会		中止
『地域支援だより』の発行		年間4回発行

【今年度の状況】

・感染症拡大防止の観点から、来校しての教育相談や学校見学は、来年度の就学及び進学を検討する学年に限定した対応とさせていただきました。次年度以降の進路を考えられている学年の方からの電話相談もありました。より早い段階から、本人、家庭、学校等が共に進路について考えるという意識が感じられます。来校される方には、来校者の人数制限、健康チェック、マスクの着用等のご協力のもと、相談を安全に行うよう努めました。

・教育相談は、前年度とほぼ同じ件数となっています。幼小中高と、どの学年からも来校・電話による教育相談がありました。特別支援教育に意識を向けられている様子とともに、相談ケースの多様化がうかがえました。

・年度当初に予定していた学校説明会は、多数の申し込みがありましたが、感染症拡大防止の観点から急遽中止とさせていただきました。期間を限定して、学校ホームページに学校概要紹介を掲載し、それを視聴していただく形に替えました。大勢の方に視聴していただいたことで、本校を知る一つとなったと思われます。

・訪問支援では、学習面や行動面、他の児童生徒との関係づくり等についての相談が多く見られました。それぞれの学校において、児童生徒の支援に悩みながら取り組んでいる様子が感じられました。また、外部専門家の同行による訪問支援により、専門家から具体的な支援方法についての助言を、直接聞く機会として活用していただいたケースもありました。

令和4年度の本校の学校説明会・授業体験について

就学や進学など、今後の子どもたちの進路を考えるにあたっては、「幅広い情報収集」や「本人や保護者の気持ちを重視した関係者による充分な話し合い」が重要です。小学校や中学校の就学については、お住まいの地域の教育委員会とよく相談され、居住地域の小学校や中学校の見学等を行い、学校の様子や雰囲気を感じながら、総合的に考えていくことが望まれます。また、中学校卒業後の進路選択にあたっては、様々な進路を知ることと本人の希望がとても大切になります。

本校に関しては、まずは学校の様子を知っていただくことをお勧めしています。例年開催しているオープンスクールは、感染症の状況や拡大防止の観点から、来年度は行わず、本校のホームページに学校概要紹介を掲載する予定です。また、授業体験会については、年長、小学6年、中学3年を対象として実施する予定です（地域の感染症の状況等により変更があります）。

詳しくは、5月以降に出される地域支援だより及び本校のホームページをご覧ください。

わかばちゃん「ちょっと聞いてくりょ～し」

ちょっと先の

子どもの「してほしい行動」を増やすには　その2

③ 未来が理解できるようにする

活動には意欲的に取り組んでいるけど、「なかなか切り替えができない」「終わりにできない」ということがあると思います。

それは、先を見通すことが難しく、「終わったら〇〇ができる」「次は〇〇が待っている」ということがわからないので、今やっていることを終わらせないのかもしれません。

また、良かれと思って、「もう少ししたら終わるよ」と予告したのに「終わるよ」という言葉だけが伝わってしまい、ギャーっとひっくり返ってしまうなんてことも・・・。「もう少し」という表現はとても曖昧でわかりにくいものです。

そんな時は、絵カードなどを使って「次のこと」を提示したり、視覚化タイマーで「もう少し」を目に見えるようにする支援が有効です。そうすることで、子どもは次のことに気持ちを向けたり、時間を意識することができるようになります。

赤い色がなくなったら終わり

視覚タイマー

予定絵カード

④ できていない時だけでなく、できている時に目を向ける

例えば、静かにしてほしい時に、子どもが騒いでいたら、「静かにしなさい」と注意しますね。しかし、静かにしてくれた時に、どのくらいそれを評価する言葉をかけていますか。静かになったからそれで良しとしてしまい、静かにしてくれたことに対してのプラスの声掛けをついつい忘れがちです。騒いでいるのをやめて静かになったら「静かにしてくれてありがとう」「静かにできてえらいね」など、プラスの声掛けをたくさんすることで、子どもは「騒ぐ」という行為よりも「静かにする」という行為をした方が良い評価を得られることを学べます。

前号でもお伝えしましたが、注目されたくてわざと注意されそうな行為をする子どももいるので、できていないことに注目しすぎると、その行為を強化してしまうことにもつながります。

また、できている行為に目を向け、プラスの声掛けを増やすことは子どもの自己肯定感だけでなく、支援者側の他者を肯定的に捉える視点を養えます。お互いに気持ちよく過ごせますね。

山梨県立わかば支援学校
〒400－0226　南アルプス市有野３３４６－３
ＴＥＬ：０５５－２８５－１７５０
ＦＡＸ：０５５－２８５－５８２７
担　当：地域支援部（　丸山 なつ江　　木村　千里　　武井 明子　　鮫田　直子　）
【URL】ｈｔｔｐ://www.ｗａｋａｂａｙ．ｋａｉ．ｅｄ．ｊｐ/
【E-Mail】ｗａｋａｂａｓ@ｗａｋａｂａｙ．ｋａｉ．ｅｄ．ｊｐ

受付時間
月・水　13:30～17:00　火・木・金　9:30～17:00